

岡山県子ども・子育て会議 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：平成29年2月6日（金） 14：00～16：00
- 2 場所：ピュアリティまきび2階「千鳥」
- 3 出席委員名（計12名、敬称略）
市 圭子、糸山 嘉彦、岡本 壯二、梶原 洋一、小林佳代子、佐藤 和順、武本 学、
中山 芳一、則武 直美、服部 剛司、山下 芳枝、和田 広志

【議事概要】

<議題>

議題1 幼保連携型認定こども園設置認可について

(大西子ども未来課副課長)

資料1に基づき説明

○発言要旨

(委員)

社会福祉法人岡山こども協会では、さくらんぼ保育園とさくらが丘保育園を経営されているが、赤磐市桜が丘東エリアではまだ保育園が足りていないということか。

(事務局)

いずれの園でも定員を超えて受け入れている状況である。

(委員)

ニーズがあるということだが、保育園ではなく、認定こども園を設立する特別の理由があるのか。

(事務局)

1号認定の子どもの受け入れも想定された上での選択だと思われる。

(委員)

浅口はちまん認定こども園の理念が、八幡保育園の理念とほぼ同じである。認定こども園と幼稚園の違いを踏まえ、理念、目標を設定すべきだと考える。

(委員)

浅口はちまん認定こども園について、必要配置数10.3人に対して、園児の教育・保育に直接従事する職員が11人で必要配置数は満たしているものの、他の2園に比べ余裕がないように感じる。職員に加重負担がかかることのないよう配慮してほしい。

(委員)

浅口はちまん認定こども園の定員は、3歳児19人、4歳児18人、5歳児18人と年長になるほど減っている。通常であれば増えていくはずだが、何か地域の事情があるのか。

(事務局)

市内に公立幼稚園があり、さらに、近隣の私立幼稚園を希望される方も多といった事情を考慮し、定数を設定されたものと考えられる。

(委員)

今回認可申請のあった3園がある赤磐市、浅口市、吉備中央町の待機児童は把握しているのか。人口減少が進行する中、待機児童の状況などからしっかりとニーズを予測する必要があるのではないかと。また、保育士は確保できているのか。

(事務局)

平成28年4月時点では待機児童は出していないが、定員を超えて受入をしている状況がある。また、女性の社会進出が進んでいることなどもあり、今後しばらくの間は、保育需要が増えるものと見込んでいる。

保育士がどの程度確保できているかは確認できていないが、県でも保育士の確保に向けて、来年度、新規事業を予定している。

(委員)

にこにこふたばこども園では定員割れしているが、なぜ認定こども園に移行するのか。

(事務局)

認定こども園に移行することにより、1号、2号・3号を合わせて定員60人としたもので、定員増となるものではない。

(委員)

需要プラス県の上乗せ分について、平成31年度以降はどのように推測されているのか。

(事務局)

来年度、県と市町村の計画を中間年で見直す、保育の需要が後年度にずれるのであれば、県としても見直す方向で検討する可能性はある。

(委員)

いずれの園の園長も、保育士資格又は幼稚園教諭二種免許しか持っていないが、幼稚園教諭一種免許は必須ではないのか。

(事務局)

園長の資格要件については、認定こども園法施行規則第12条に規定されており、基本的には教諭専修免許又は一種免許を有し、かつ、保育士の資格を有することに加えて、学

校、児童福祉施設での勤務歴が5年以上あることが要件となっている。ただし、同規則第13条に、これらの要件に該当しない場合でも、園の運営上特に必要があれば、園の設置者は、同等の資質を有する者を任命することができる」とされている。

今回の3園については、勤務状況等を勘案し、同等の資質があると判断して任命するもので、県としても第13条により適任であると考えている。

(委員)

平成31年度の特例終了後、園長の要件について、県として国の基準に上乘せして独自の基準を設けるのか、それとも今と同様に進めていくのか御検討いただきたい。

(委員)

認定こども園については、保護者の方にも分かりやすく、県や市町村の広報でもしっかりと伝えていってほしい。

(委員)

認定こども園の名称について、認定が前についていたり後だったり統一されていないがよいのか。

(事務局)

名称の使用制限については、幼保連携型認定こども園以外の施設が「幼保連携型認定こども園」という名称又は紛らわしい名称を用いてはならないという制限はあるが、それ以外の制限はないため、園の判断で名称を決定されている。

<議題>

議題2 その他

「平成29年度子ども未来課関係重点事業調書」

(柴田子ども未来課長)

資料2に基づき説明

(委員)

社会的養護からの自立に向けたアフターケア事業について、施設を出て就職する子がメインとなっているが、全国的には約2割が大学に進学するといったデータがあり、県内でも進学する子もいるので、そういった子も視野に入れて考えてほしい。

また、措置解除後に就職したがうまくいかず、会社の寮を出なければいけないといったことが起こり得るので、措置解除後のフォローもお願いしたい。

(委員)

祖母が孫育てをする際、子育て方法が変わっており、確執ができるといった話を聞く。イクジイもいいが、祖母の支援も考える必要があるのではないかと。

また、子育てと介護を同時にしなければいけないWケアも問題となっており、今後はそういう点も踏まえた子育て支援を考える必要がある。

(柴田子ども未来課長)

本年度、父親向けと祖父母向けの子育て応援BOOKを作成している。祖父母向けの冊子では、子育て方法の違いに加え、孫との遊び方やお出掛けスポットも紹介する予定で、母子健康手帳等と併せて配布できたらと考えている。

(委員)

児童クラブについて、支援員の雇用改善とか、ソフト面での次なる課題が出てきていると感じている。

また、就職で県外に出た若者が、30歳半ばになって本県に戻り、第一線で活躍してきたスキルを生かして、岡山県の企業を牽引していく「KNK（故郷に錦を飾ろう）プロジェクト」といったような施策もぜひ検討してほしい。

(委員)

業界内でよくいわれている0号認定、つまりは家庭にいる子どもたちの支援を今後どうしていくのかということもぜひ検討いただきたい。

また、広島県との婚活事業について、行政の区切りで結婚支援をするわけではないと思うので、他県にもぜひ広げていただきたい。

保育士確保については、本県は、対人口比でいえば、一番保育士養成校が多い地域であるはずだが、それでもこれだけ足りないということで、継続して働くことのできる対策をお願いしたい。

以上